

令和7年度 岩手県資源管理型漁業漁業者協議会運營業務委託事業

令和7年度

岩手県沖における漁業資源の生態と資源特性

令和8年2月

岩手県資源管理協議会

岩手県漁業協同組合連合会

岩手県水産技術センター

## 目次

### 1 資源評価魚種

- 1 ヒラメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
- 2 マコガレイ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4
- 3 ババガレイ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.6
- 4 アイナメ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.8
- 5 マダラ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10
- 6 ミズダコ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.12
- 7 ケガニ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.14
- 8 チゴダラ（ドンコ）・・・・・・・・ p.16

### 2 動向評価魚種

- 9 タチウオ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.19
- 10 トラフグ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.20
- 11 マダコ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.21
- 12 マサバ、ゴマサバ・・・・・・・・ p.22
- 13 マイワシ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.23
- 14 スルメイカ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.24
- 15 ツノナシオキアミ（イサダ）・・・・ p.25

- 16 岩手県における主要魚種の水揚動向・ p.26

本資料の水揚量は、岩手県水産情報配信システム「いわて大漁ナビ」により集計したものです。年間水揚量の集計方法は以下のとおり。

- ・ケガニを除く全魚種：県内全魚市場における1月～12月までの合計値。
- ・ケガニ：県内全魚市場における12月～翌4月までの合計値。

なお、水揚量の過去平均比は、評価年と前年及び直近の過去5ヶ年平均との百分率で示しています。

なお、推定された一部の資源量については、最新年のデータの影響を強く受けるため、前年度の評価から変更・修正される場合があります。

資源評価魚種は直近5ヶ年の資源評価結果、動向評価魚種は直近5ヶ年の水揚動向をもとに、それぞれ動向を判断しました。

また、本評価結果の一部は、「水産資源調査・評価推進委託事業」及び「沿岸漁業における自主的資源管理体制高度化支援事業」により得られたデータを利用しています。引用する場合は引用元を明記したうえご活用ください。

# 1 資源評価魚種

資源量水準：高位

資源動向：横ばい

# 1-1 ヒラメ

(呼び名：ひらめ・そげ)



1歳:25cm  
(200g)

2歳:35cm  
(450g)

3歳:40cm  
(800g)

## 1) 一般的な生態

ヒラメは、北海道中部以南の日本周辺に分布しています。魚食性が強く、イワシ類やイカナゴなどを主な餌としています。岩手県周辺では、水温の高い夏には水深50m以浅に生息していますが、冬場になると水深100~200m近くまで移動します。産卵期は6~7月で、約1ヶ月の浮遊期間中に眼が片側に移動し、水深5m前後の砂浜域に着底して親と同じ生活に移ります。

成長は早く、1歳で全長25cm(200g)、2歳で全長35cm(450g)、3歳で全長40cm(800g)に達します。オスは2歳、メスは3歳で成熟し、産卵に加わるようになります。

## 2) 水揚動向

ヒラメは、主に定置網、底刺網により漁獲されています。岩手県では、岩手海区漁業調整委員会指示に基づき全長30cm未満のヒラメの採捕が禁止されており、漁獲対象は30~40cm(1~3歳魚)が主体となっています。

水揚量は震災以降急増し、平成26年には過去最高の257トンに達しました。その後、平成27年以降減少していましたが、令和2年から再び徐々に増加しています。令和7年の水揚量は145.6トン(前年比85%、過去平均比116%)で、前年を下回りました(図1-1)。

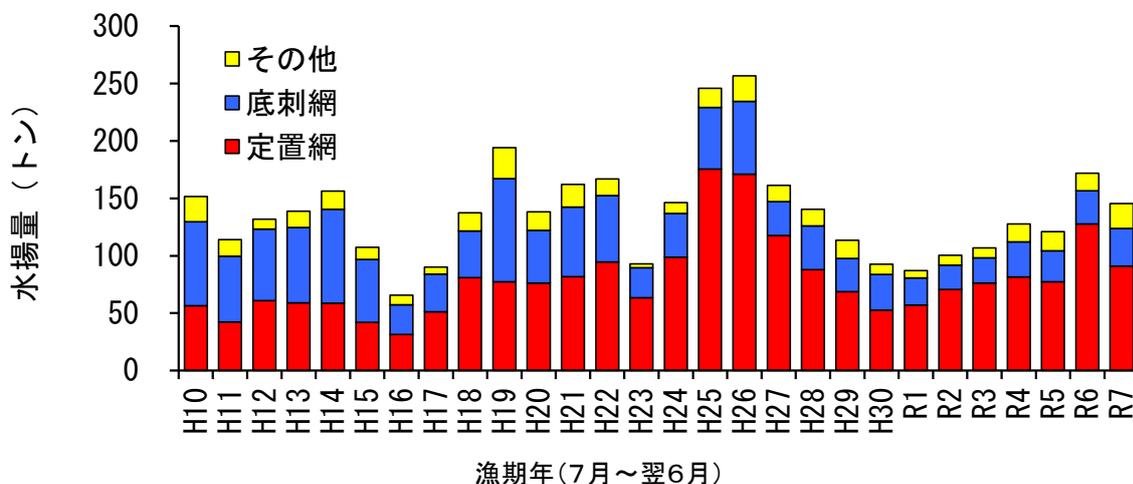


図1-1 岩手県におけるヒラメの漁法別水揚量

### 3) 資源動向

魚市場水揚物の全長組成（図1-2）と水揚量に基づく推定資源量（図1-3）は、平成22年頃から3歳以上の高齢魚を主体として増加し、平成25年にピークとなりました。その後、平成29年にかけて一時的な減少傾向に転じたものの、令和元年から再び増加傾向となり、令和6年は前年を上回りました。

今後の加入の指標となる野田湾及び大槌湾における着底稚魚分布密度は、平成28年以降低水準で推移していましたが、令和7年は野田湾、大槌湾の両海域で前年を上回り、特に野田湾では平成17年以降で最高の分布密度となりました（図1-4）。

以上の結果及び資源動向から、ヒラメの資源量水準は高位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

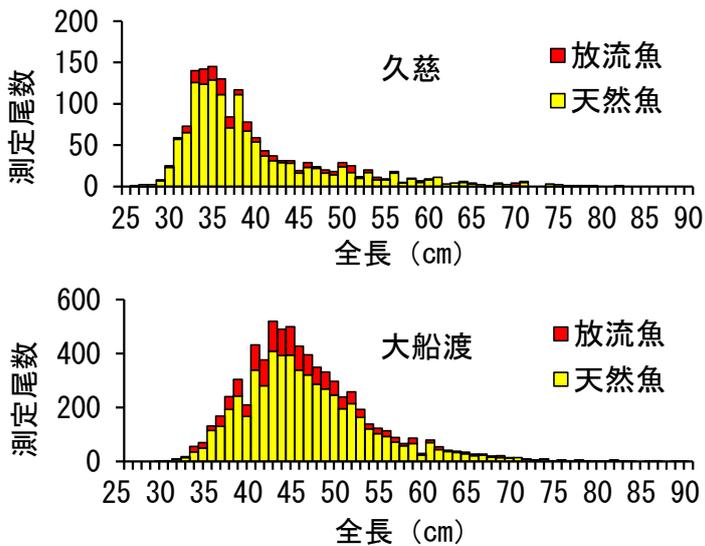


図1-2 岩手県におけるヒラメの全長組成  
(久慈及び大船渡魚市場魚体測定に基づく)

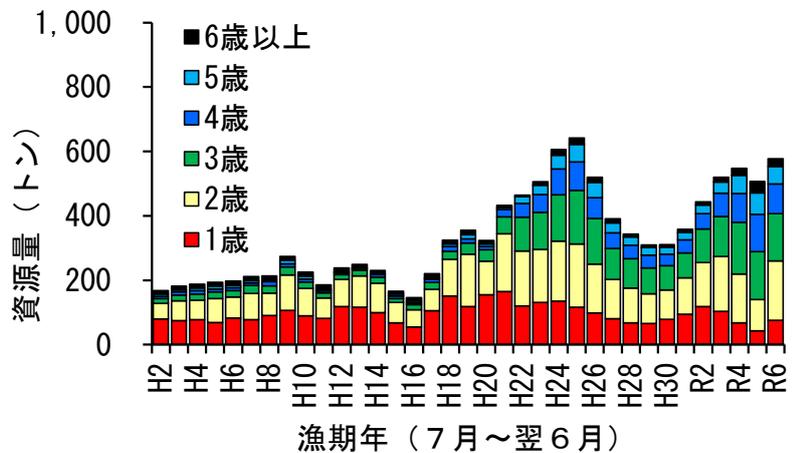


図1-3 岩手県におけるヒラメの年齢別推定資源量  
(天然・放流込)

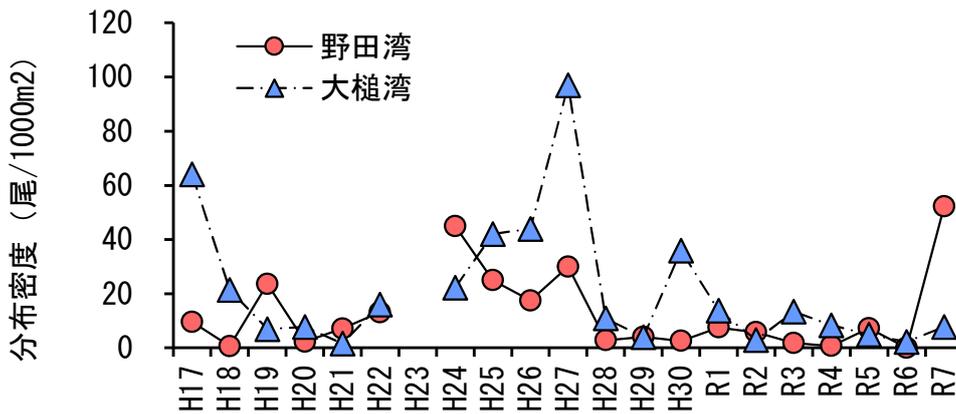


図1-4 野田湾及び大槌湾における着底稚魚分布密度

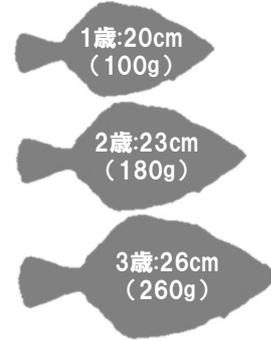
#### 資源管理に関するコメント

ヒラメの資源量は震災以降、高齢魚を主体として高い水準で推移していますが、近年は若齢魚が減少傾向です。

安定的な漁獲を維持するためには、現行の資源保護措置を継続し、若齢魚（小型個体）を確実に保護することが重要と考えられます。

## 1-2 マコガレイ

(呼び名：まがれい・くろがしら)



### 1) 一般的な生態

マコガレイは北海道南部以南に広く分布する温帯性のカレイで、沿岸の砂泥底に生息し、小型のゴカイ類や甲殻類を主な餌としています。岩手県周辺では主に水深100m以浅の湾内に生息し、1～4月頃に沈性卵を海底に産みます。外見がマガレイと似ていますが、マガレイは一般的に無眼側の尾鰭から体側にかけて黄色がかった一方、マコガレイには黄色い部分がありません。

1歳で全長20cm (100g)、2歳で全長23cm (180g)、3歳で全長26cm (260g) に達します。メスの方が大型になり、全長35cmを超える個体もいます。2～3歳で成熟し、産卵に加わるようになります。

### 2) 水揚動向

マコガレイは、主に底刺網により漁獲されています。岩手県では、資源管理計画に基づき全長20cm未満のマコガレイの再放流が行われており、漁獲対象は20cm (1歳魚) 以上となっています。

水揚量は、震災の影響により平成23年に大幅に減少しましたが、平成24年には震災前と概ね同水準まで回復しました。その後は70トン前後で比較的安定して推移していましたが、令和元年以降は減少傾向に転じています。令和7年の水揚量は21.6トン（前年比88%、過去平均比53%）となり、平成10年以降で最低となりました（図2-1）。

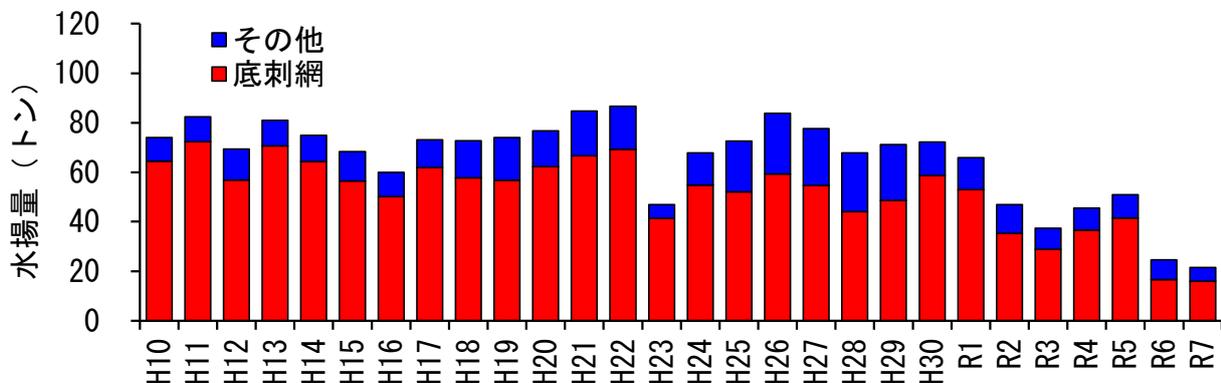


図2-1 岩手県におけるマコガレイ(水揚量の一部にマガレイを含む)の漁法別水揚量

### 3) 資源動向

魚市場水揚物の全長組成と水揚量に基づく推定資源量（図2-2）は、6～7年程度の周期で増減を繰り返す傾向が認められていましたが、平成26年以降は減少傾向にあり、現在も回復する傾向が認められません。令和6年（漁期:令和6年1月～令和6年12月）は、前年を下回り、過去最低の水準となりました。

底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量は平成17年頃から増加傾向にあり、震災以降高い水準で推移し、令和6年以降大きく減少しました（図2-3）。

今後の加入の指標となる大槌湾における着底稚魚分布密度は、平成25年及び平成29年に高い水準が見られたものの、平成30年以降は低水準で推移しています。令和7年は前年を上回りました（図2-4）。

以上の結果及び資源動向から、マコガレイの資源量水準は低位、動向は減少傾向にあると判断しました。

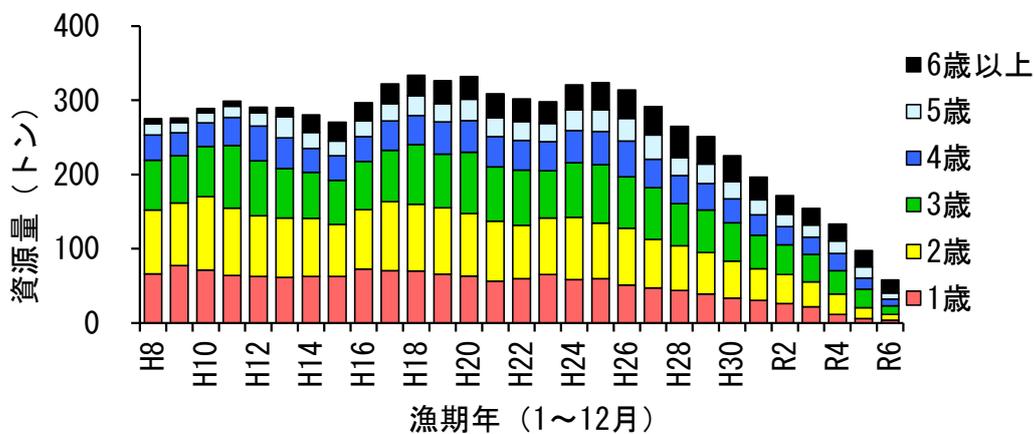


図2-2 若手県におけるマコガレイの年齢別推定資源量

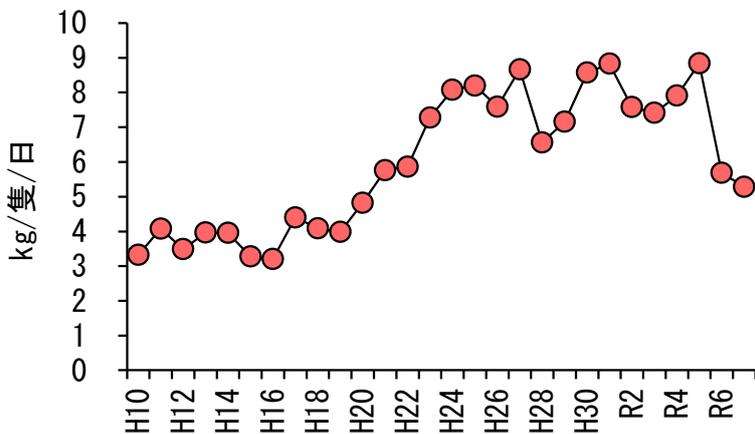


図2-3 底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量

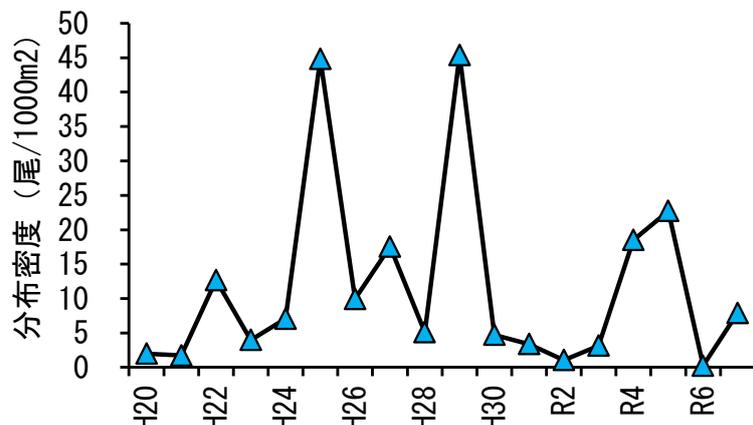


図2-4 大槌湾における着底稚魚分布密度

#### 資源管理に関するコメント

マコガレイの水揚量は急激に減少しており、資源構成は若齢魚の減少により、高齢魚に偏重していると推定されます。今後、高齢魚の残存資源の減少に伴う資源全体の減少が継続する可能性が高いです。

資源を回復させるためには、漁獲規制の強化など、現行の資源保護措置より強固な対策が必要と考えられます。

# 1-3 ババガレイ

(呼び名：なめたがれい)



## 1) 一般的な生態

ババガレイは、北海道から東北地方に広く分布しています。砂泥底に生息し、小型の甲殻類やゴカイ類、クモヒトデなどを餌としています。岩手県沖にみられるババガレイはごく沿岸の岩礁域から水深300m付近まで幅広く生息していますが、水深50～200m付近が分布の中心となっています。産卵時期は1～4月で、水深100m付近で水中を漂う卵を産みます。

2歳で全長22cm (122g)、3歳で全長27cm (253g)、4歳で全長32cm (407g) に達し、成熟して産卵に加わるようになります。

## 2) 水揚動向

ババガレイは、主に底刺網、底びき網により漁獲されています。漁獲対象は概ね2歳魚以上で、3～4歳魚が主体となっています。

水揚量は、震災の影響により平成23年に大幅に減少しましたが、平成24～27年にかけて増加しました。しかし、平成28年以降は減少傾向に転じ、令和7年の水揚量は134.5トン（前年比127%、過去平均比92%）となりました（図3-1）。

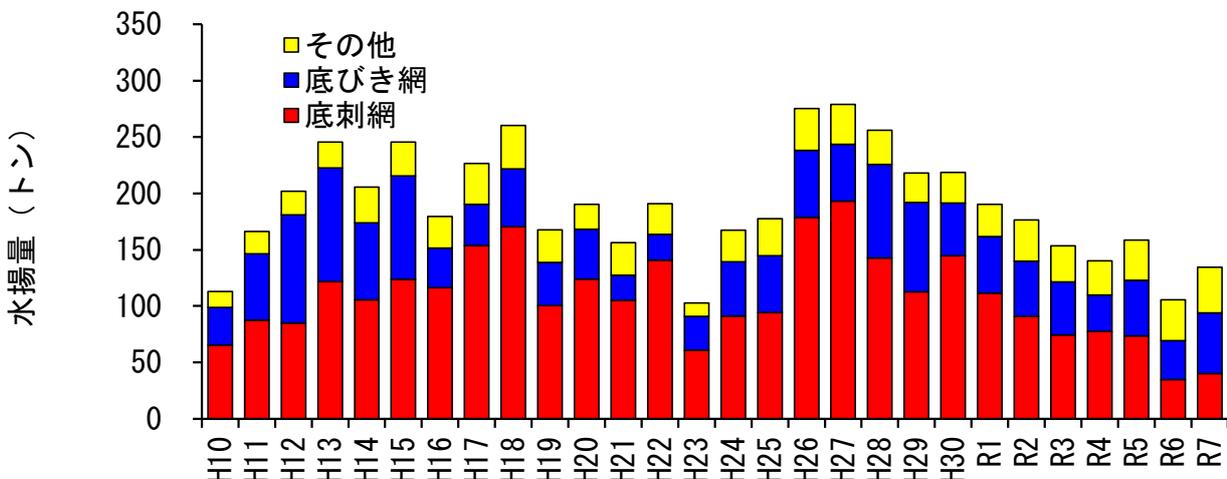


図3-1 岩手県におけるババガレイの漁法別水揚量

### 3) 資源動向

底刺網、底びき網における1隻1日あたりの平均水揚量は、いずれも平成24年頃から増加傾向にありましたが、平成28年頃から減少に転じ、令和6年は底刺網で減少、底びき網では横ばいとなりました。令和7年は、底刺網では前年と同程度、底びき網では前年を大きく上回りました(図3-2)。

漁業指導調査船「北上丸」による釜石沖におけるカゴ調査で採集されたババガレイの10カゴあたりの平均採集尾数は、平成23年以降緩やかな増加傾向にあり、令和元年、令和7年に最高水準となっています(図3-3)。

以上の結果及び水揚動向から、ババガレイの資源量水準は中位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

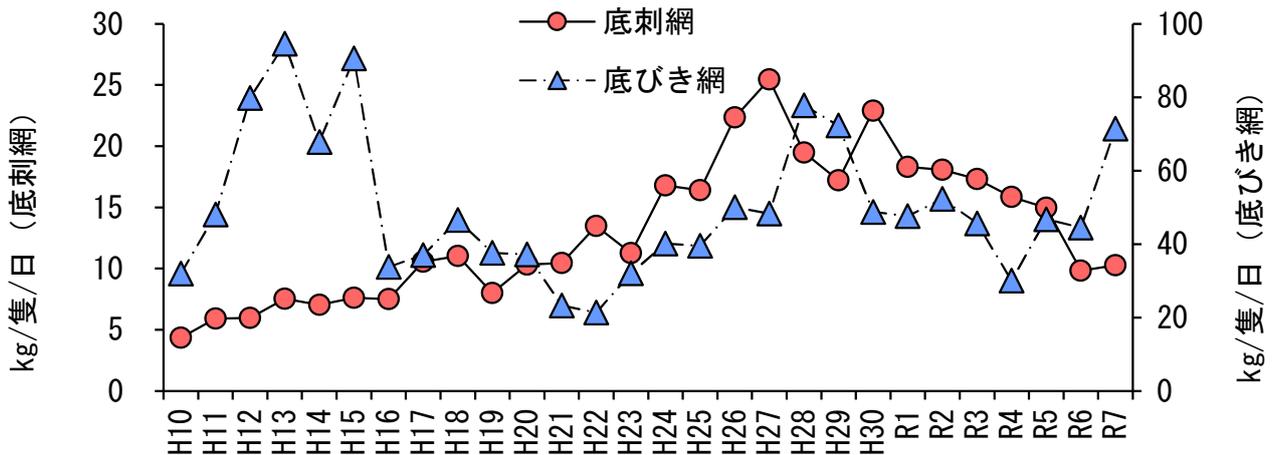


図3-2 底びき網及び底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量

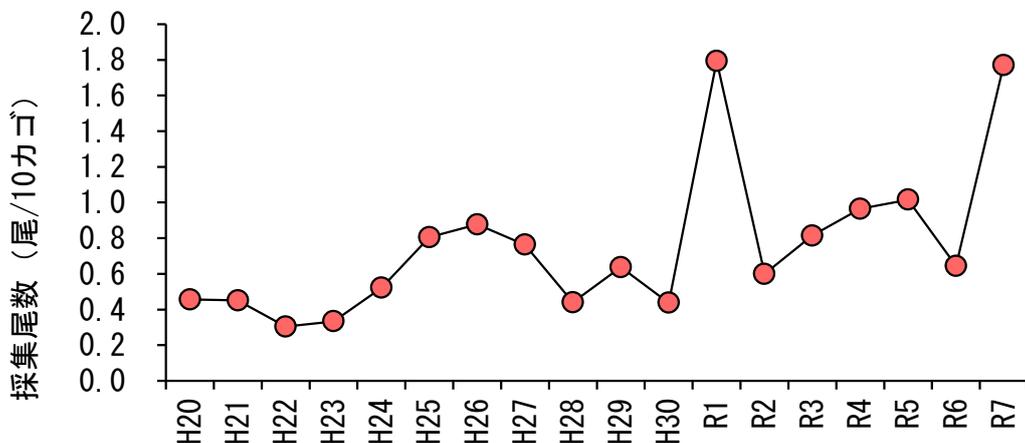


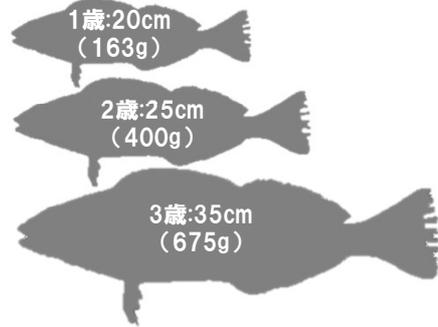
図3-3 釜石沖における調査船調査によるババガレイの平均採集尾数

#### 資源管理に関するコメント

ババガレイの資源量水準は、中位を維持していると評価していますが、水揚量は平成28年以降徐々に減少しています。

本種は成長が遅く、資源の回復に時間を要することから、小型魚の水揚げを控える等、資源管理の取組を検討する必要がありますと考えられます。

## 1-4 アイナメ (呼び名：あぶらめ・ねう)



### 1) 一般的な生態

アイナメは、九州以北の岩礁域に広く分布し、ゴカイ類や甲殻類、魚類を主な餌としています。岩手県周辺にみられるアイナメは、ごく沿岸から水深200m付近まで広く生息しています。産卵期は11～12月で、沿岸の浅い海底で雌雄がペアを作って粘着性の卵を海底に産み付け、オスが孵化まで約1ヶ月間保護します。ふ化後はおよそ2ヶ月間浮遊期を過ごした後、着底して親と同じ生活に移ります。

成長が速く、1歳で全長20cm (163g)、2歳で全長25cm (400g)、3歳で全長35cm (675g) に達します。2歳で成熟し、産卵に加わるようになります。

### 2) 水揚動向

アイナメは、主に延縄、底刺網で漁獲されています。岩手県では、資源管理計画に基づき全長25cm未満のアイナメの再放流が行われており、漁獲対象は25cm (2歳魚) 以上となっています。

水揚量は、震災の影響により平成23年に大幅に減少し、平成25～令和元年にかけて90～100トン前後で比較的安定していましたが、令和2年以降は50～70トン前後で推移しています。令和7年の水揚量は70.3トン (前年比121%、過去平均比118%) となり、前年を上回りました (図4-1)。

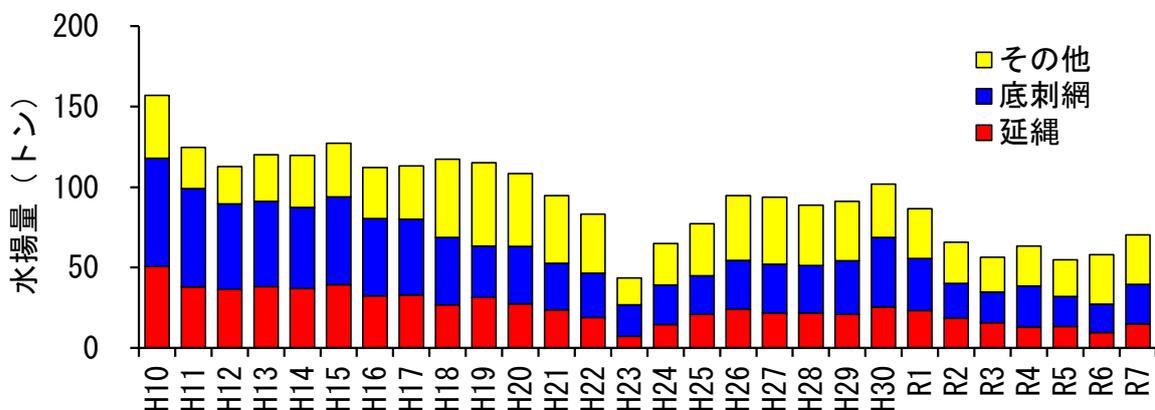


図4-1 岩手県におけるアイナメの漁法別水揚量

### 3) 資源動向

魚市場水揚物の全長組成と水揚量に基づく推定資源量（図4-2）は、約10年周期で変動が見られ、資源構成は平成16年以降、高齢魚に大きく偏り、若齢魚の割合が低下傾向にあります。令和6年（漁期:令和6年1月～令和6年12月）は、3歳を除いて前年を下回り、依然として低い水準となっています。

延縄、底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量は、震災以降比較的高い水準を維持していました。令和7年は、延縄、底刺網ともに前年を上回りました（図4-3）。

以上の結果及び資源動向から、アイナメの資源量水準は低位、動向は減少傾向にあると判断しました。

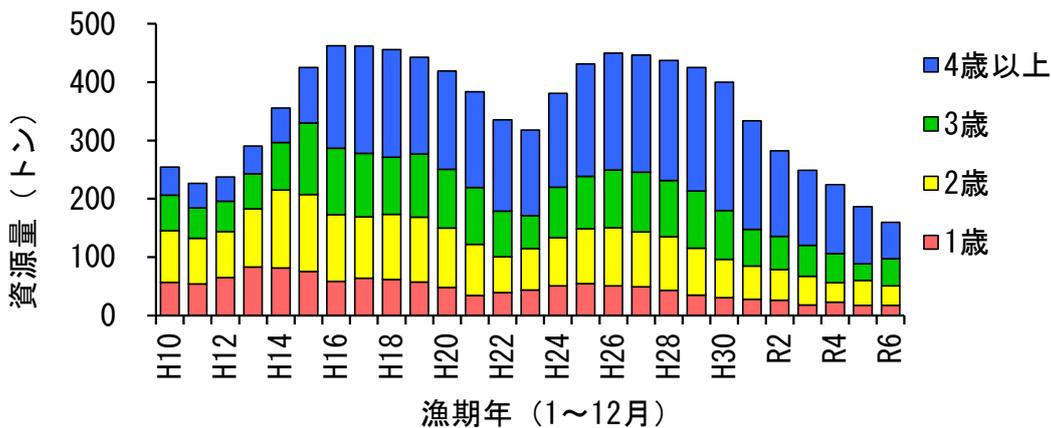


図4-2 岩手県におけるアイナメの年齢別資源量

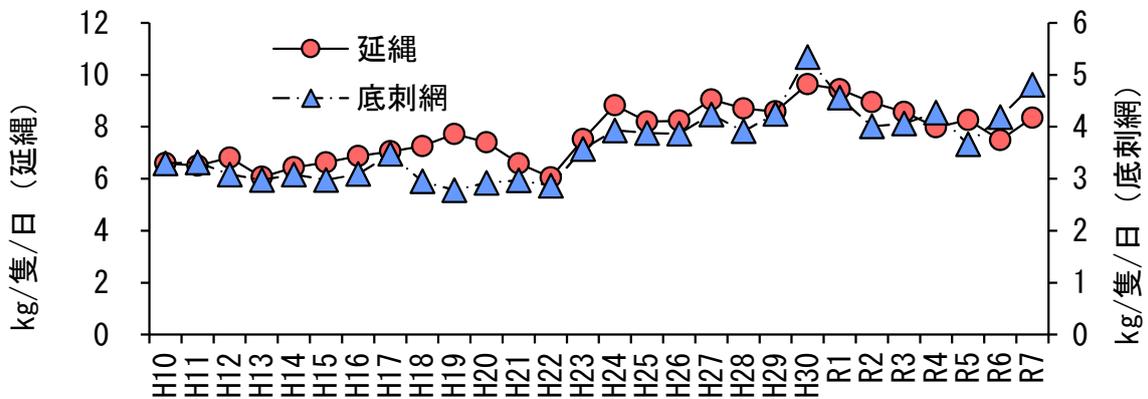


図4-3 延縄及び底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量

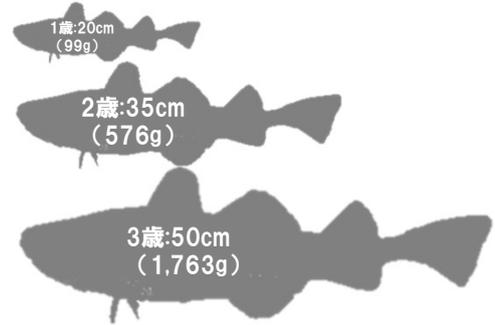
#### 資源管理に関するコメント

近年、資源量は低位水準ですが、CPUEに大きな変化がみられないことから、漁獲圧が高くなってきていると推察されます。

今後も安定的な漁獲を維持し、資源を回復させるためには、現行の資源保護措置より強固な資源管理の取組の実施が必要と考えられます。また、アイナメはオスが卵を保護する習性を持つことから、産卵期からふ化時期の秋～冬季の漁獲をできるだけ控える等の措置も必要です。

# 1-5 マダラ

(呼び名：たら・またら)



## 1) 一般的な生態

マダラは、常磐以北の太平洋、新潟県以北の日本海、オホーツク海に分布しています。海底付近で生活し、生後約2年間はツノナシオキアミ（いさだ）、それ以降はイカ類や魚類を主な餌としています。岩手県周辺のマダラは、通常水温4～5℃の水深200～500m付近に生息し、1～2月頃になると水深100mよりも浅い海域に回遊して産卵します。産卵は、砂泥底で行われ、たくさんの沈む卵を海底にばらまくように産み付けます。

成長は早く、1歳で体長20cm（99g）、2歳で体長35cm（576g）、3歳で体長50cm（1,763g）、4歳で体長60cm（5,066g）に達し、3～4歳で産卵に加わるようになります。

## 2) 水揚動向

マダラは、主に延縄（たら縄）、底びき網で漁獲されています。漁獲対象は概ね2歳以上で、産卵期になると体重2kgを上回る3歳以上の大型魚が主体となります。

水揚量は平成21年以降、増加傾向にありましたが、平成25年をピークとして、平成26年以降は減少傾向が続いています。令和7年の水揚量は1,678.7トン（前年比108%、過去平均比84%）となりました（図5-1）。

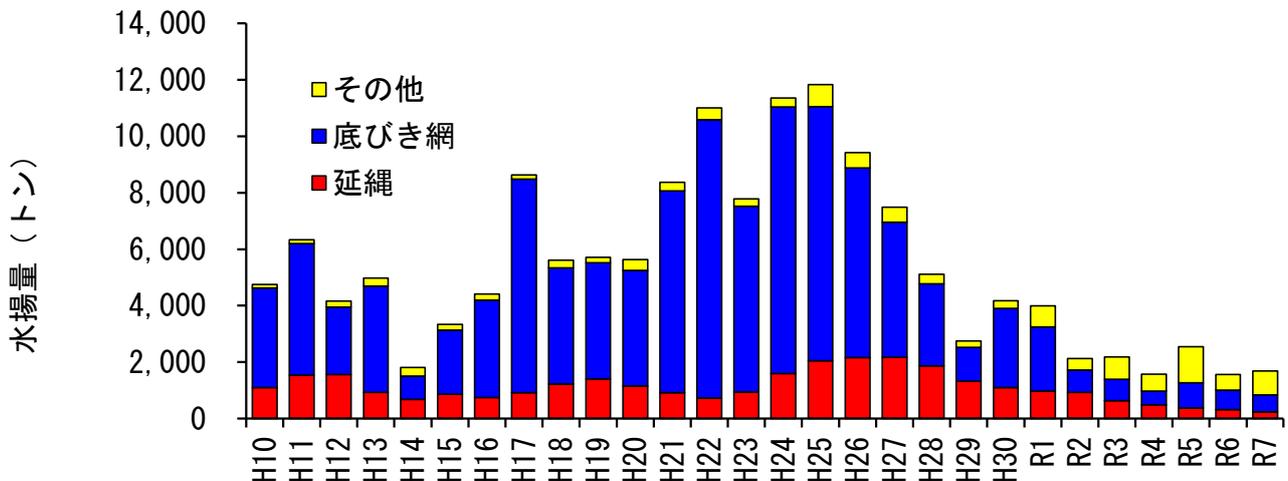


図5-1 岩手県におけるマダラの漁法別水揚量

### 3) 資源動向

延縄、底びき網における1隻1日あたりの平均水揚量は、平成22～25年にかけて急増した後、平成26年以降は減少傾向にあります(図5-2)。延縄では、平成10～20年頃よりも高い水準を維持していますが、底びき網では平成28年以降、震災前の平均水準より低い状態が続いています。令和7年は、延縄では前年を下回り、底びき網では前年並となりました。

漁業指導調査船「岩手丸」による令和7年度着底トロール調査に基づく年齢別推定現存尾数は、春季及び秋季調査において、昨年を大きく下回り、平成25年以降で最低水準となりました(図5-3)。

以上の結果及び水揚動向から、マダラの資源量水準は低位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

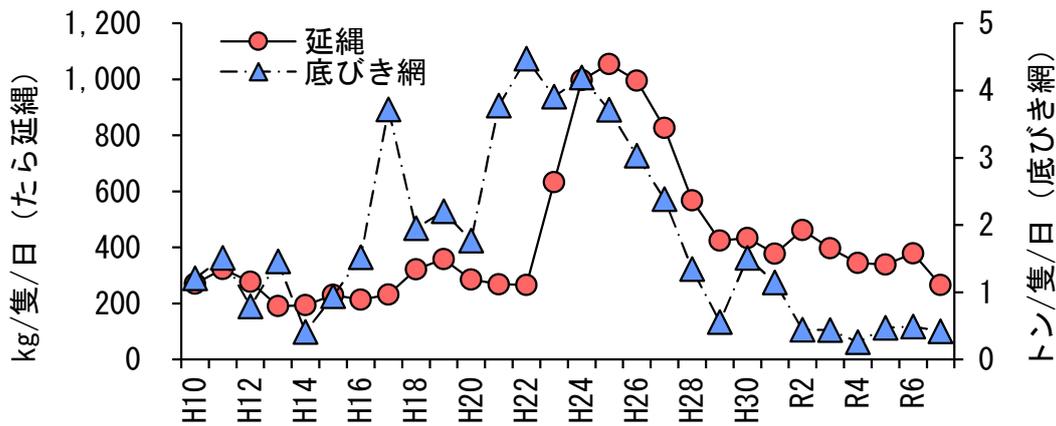


図5-2 延縄及び底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量

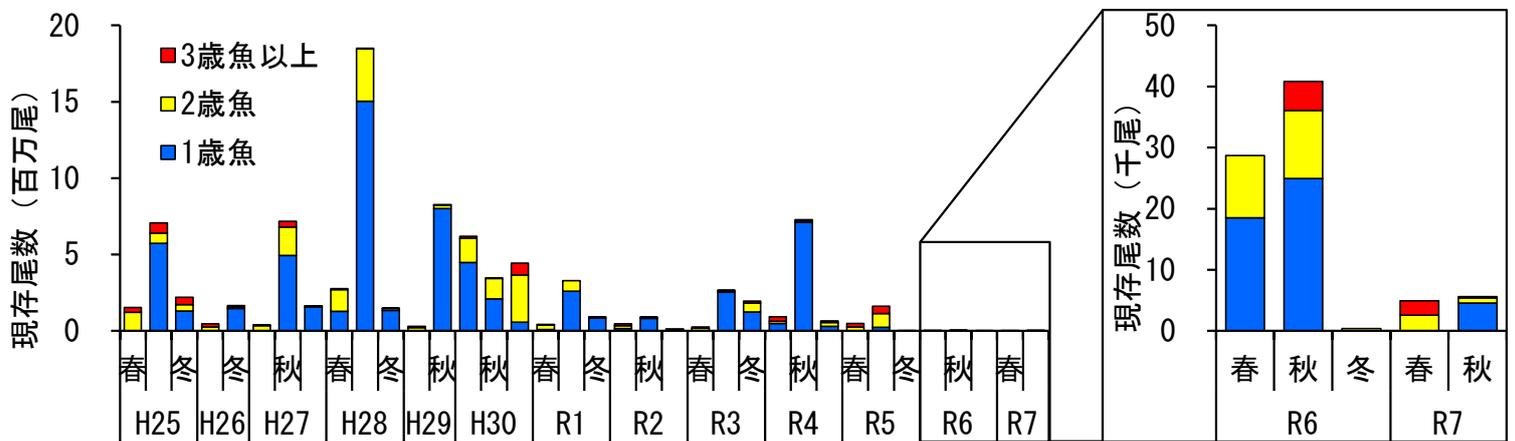


図5-3 着底トロール調査に基づく調査時期別現存尾数 (採集効率=0.2を仮定)

#### 資源管理に関するコメント

マダラの資源量は震災以降、高い水準で推移してきたものの、漁獲を支えてきた大型・高齢魚の残存資源は少なくなっているものと推測されます。安定的な漁獲を維持するためには、今後の漁獲加入が期待される小中型魚の漁獲をできる限り控えるなど、現行の資源保護措置より強固な資源管理の取組の実施が必要と考えられます。

# 1-6 ミズダコ

(呼び名：いしだこ(宮古地区))



## 1) 一般的な生態

ミズダコは、常磐以北の太平洋、日本海北部、オホーツク海に分布する世界最大のタコで、エビやカニなどの甲殻類や貝類を主な餌としています。岩手県周辺でみられるミズダコは、水深300mよりも浅い海底に生息しています。産卵期は春先で、岩場に房状の卵塊を生み付け、産卵後は雌がふ化までおよそ半年間卵を保護します。

成長は、ふ化後1年で50g程度と、初期の成長が遅いものの、その後早まると考えられています。標識放流や飼育実験の結果によると、体重2kg未満の小型個体は、早いもので1～2年、一部は3年以上かけて10kg以上に達して成熟します。

## 2) 水揚動向

ミズダコは、主にかごで漁獲されています。岩手県では、ケガニ・ミズダコ資源回復計画に基づき、体重2kg未満の小型個体の再放流が行われており、漁獲主体は体重2～5kg程度(1歳以上)となっています。

水揚量は、震災以降変動を伴いつつも比較的高い水準を維持してきましたが、平成28年をピークとして減少傾向に転じています。令和7年の水揚量は424.8トン(前年比168%、過去平均比83%)となりました(図6-1)。

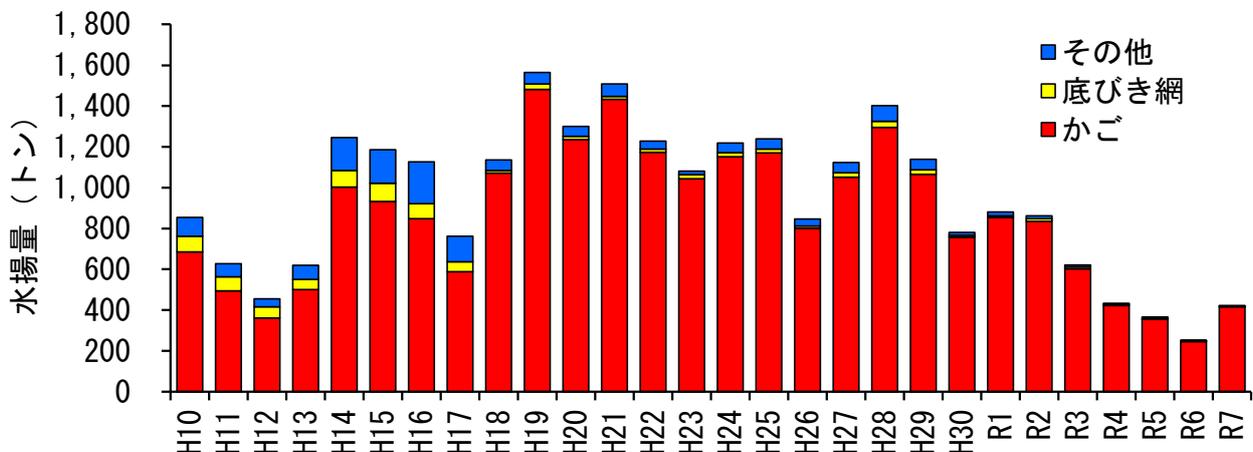


図6-1 岩手県におけるミズダコの漁法別水揚量

### 3) 資源動向

ミズダコの資源量は、平成25年以降、比較的安定して推移していましたが、令和4年に大幅に減少し、令和7年は前年とほぼ同程度となりました（図6-2）。

漁業指導調査船「北上丸」によるカゴ調査におけるミズダコの平均採集尾数は、平成20～23年にかけて2kg未満の個体が大きく減少し、平成24年からは2kg以上の個体も低水準で推移しています（図6-3）。令和7年は、5kg以上の体重階級で前年をわずかに上回りましたが、依然として低水準となっています。

以上の結果及び水揚動向から、ミズダコの資源量水準は低位、動向は減少傾向にあると判断しました。

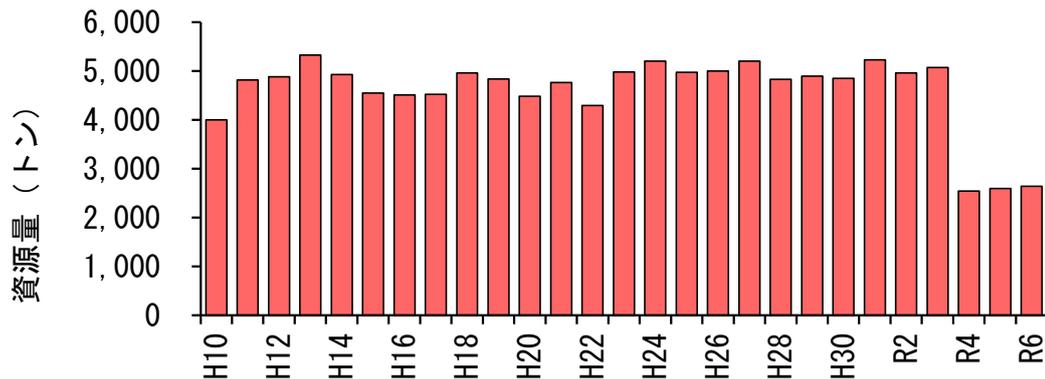


図6-2 岩手県におけるミズダコの資源重量  
シェーファーの生産モデル(非平衡観測誤差モデル)による推定値。  
なお、近年推定精度が悪化していると予想される。

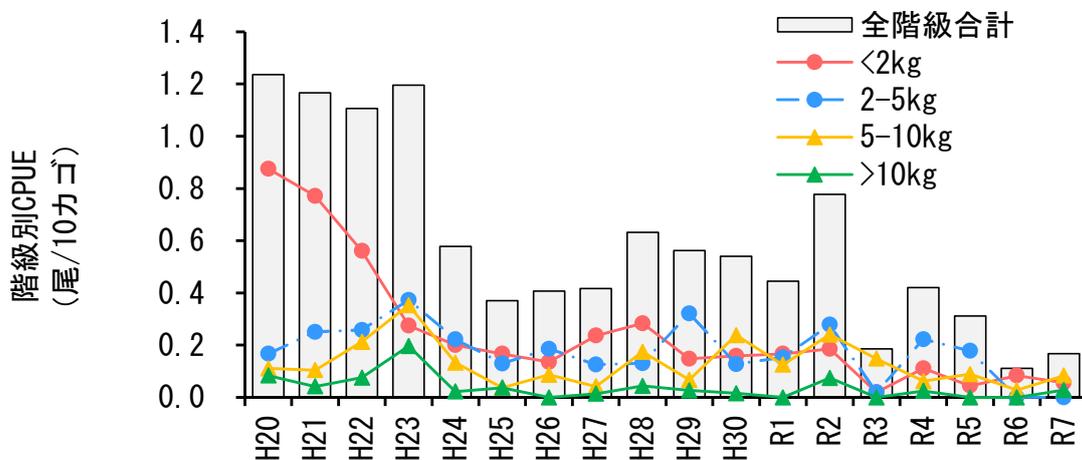


図6-3 調査船調査におけるミズダコの体重階級別平均採集尾数  
4～翌3月までのケガニ漁期前調査以外のミズダコ採捕尾数を集計

#### 資源管理に関するコメント

ミズダコの漁獲量は比較的安定して推移してきたものの、近年、資源状態が急激に悪化している可能性が高いと推測されます。また、来漁期以降に漁獲対象となることが見込まれる小型個体が少なく、加入も低水準にあると推察されます。

今後、漁獲を持続的に継続するためには、産卵期（秋～冬季）に親となる大型個体を獲り残す等、より踏み込んだ資源保護措置を検討・実施する必要があると考えられます。

# 1-7 ケガニ

(呼び名：けがに)



## 1) 一般的な生態

ケガニは、常磐以北の太平洋、日本海及びオホーツク海に分布しています。岩手県周辺では主に水深150～300mに生息しており、6～9月頃にメスが先に脱皮してオスと交尾します。産卵は交尾の約1年後に行われ、翌年春先に幼生を孵化させます。孵化した幼生はしばらく海中を浮遊した後、着底して親と同様の生活に入ります。ケガニは脱皮するごとに大きくなり、生後1年目には約6回、2年目には2回、以後毎年1回脱皮を行います。

成長は遅く、5歳で7.0cm (180g)、6歳で7.5cm (250g)、7歳で8.0cm (300g)に達します。メスは抱卵すると脱皮を行わないため、オスよりも成長が遅れます。雌雄ともに甲長5cm程度(2歳以降)から産卵に加わるようになります。

## 2) 水揚動向

ケガニは、かごと底刺網で漁獲されています。岩手県では、採捕期間(12～翌3月)と漁獲可能サイズ(甲長8cmを超えるオスのみ)が制限されており、漁獲対象は甲長8～9cm台(7歳以上)以上が主体となっています。

水揚量は、平成18年からかごを主体に増加し、平成23年には112トンに達しました。しかし、平成24～28年まで減少。その後、令和2年まで低水準で推移していました。近年は底刺網を中心に再び増加傾向にあり、令和6年(集計期間：令和6年12月～令和7年4月)は76.6トン(前年比105%、過去平均比168%)であり、前年と同程度となりました(図7-1)。

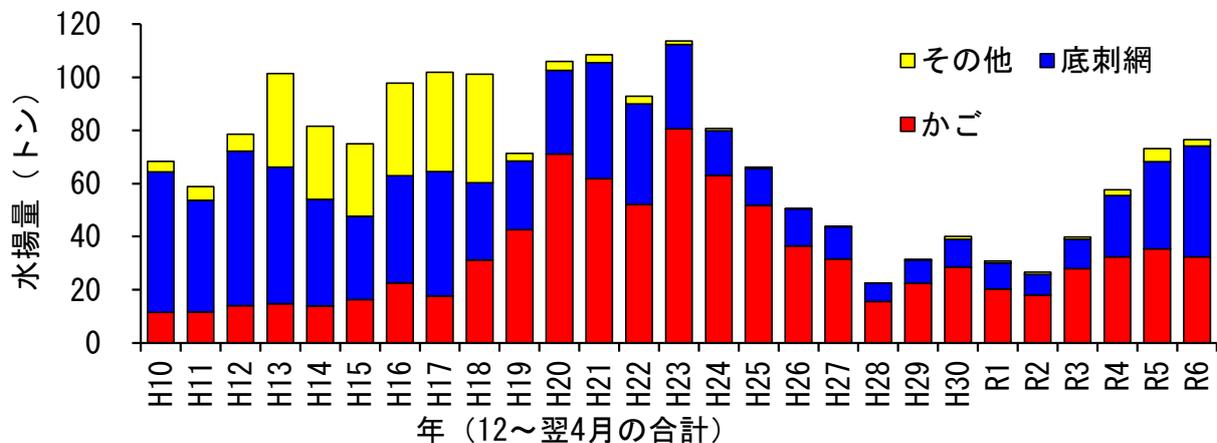


図7-1 岩手県におけるケガニの漁法別水揚量  
4月の特別採捕による水揚量も含む。

### 3) 資源動向

漁業指導調査船「北上丸」による漁期前調査（10～11月実施）における1かごあたりのオスの甲長階級別平均採集尾数は、平成20年から22年にかけて一時的に増加したものの、平成24年以降、低い水準で推移しています（図7-2）。令和7年は、甲長50～70mm台の採集尾数が前年を下回り、80mm台ではわずかに上回りました。

かご、底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量は、いずれも平成24年以降低水準で推移していましたが、令和3年頃から増加傾向に転じています。令和6年漁期は、かごでは前年を下回り、底刺網では横ばい傾向でした（図7-3）。

以上の結果及び水揚動向から、ケガニの資源量水準は高位、動向は増加傾向にあると判断しました。

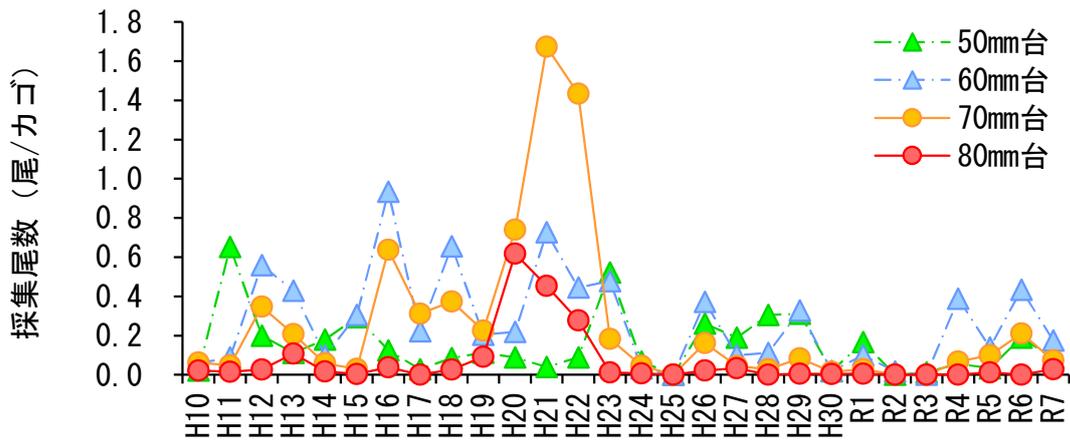


図7-2 漁期前調査で採集されたオスの甲長階級別採集尾数

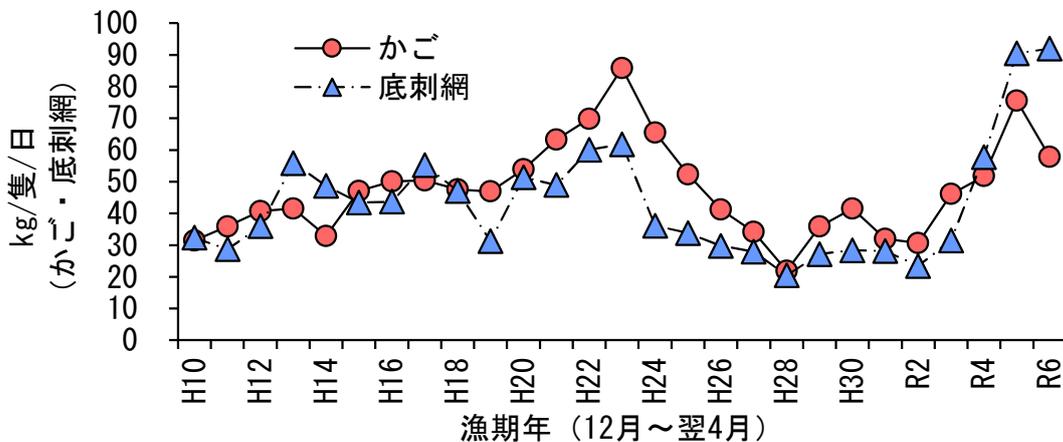


図7-3 かご及び底刺網における1隻1日あたりの平均水揚量

#### 資源管理に関するコメント

ケガニの水揚量は近年、回復傾向にあり、令和3年頃から水揚げされるケガニの大型化傾向が見られることから、今年は資源水準を高位と判断しました。これは平成30年から実施している甲長制限の効果によるものと考えられます。ただし、調査船調査においては大型・高齢個体の採捕尾数が少ないことや、高水温化による漁期の遅れが見られることから、引き続き資源の動向を注視する必要があります。

今後も安定した漁獲を続けるためには、現行の甲長8cm以下の再放流等を含む資源保護措置を継続し、小型個体を確実に保護することが重要と考えられます。

# 1-8 チゴダラ（旧エゾイソアイナメ）

（呼び名：どんこ）



## 1) 一般的な生態

チゴダラ（旧エゾイソアイナメ、地方名：どんこ）は、北海道南部から鹿児島県、台湾周辺の太平洋沿岸に分布しています。魚類を好んで捕食しますが、その他にも頭足類（イカ、タコ）、甲殻類（エビ、オキアミ）、多毛類（ゴカイ）など幅広い生物を餌にしています。岩手県周辺では、主に水深200～300m付近の砂泥質の海底に分布しています。産卵期は冬～春で、産卵のために伊豆諸島周辺まで回遊すると考えられています。成長は比較的遅く、1歳で体長5cm、2歳で体長15～20cm、3歳で体長20～30cm程度になります。オス・メスともに3歳程度で成熟し、産卵に加わるようになります。

## 2) 水揚動向

チゴダラは、主にかごや延縄により漁獲されています。漁獲対象は概ね2歳以上で、3～4歳が主体となっていると考えられます。

水揚量は、平成15年にピークを迎え、その後は緩やかに減少傾向となっています。平成26年から平成28年にかけて一時的に増加しましたが、平成30年以降は横ばい傾向で推移しています、令和7年の水揚量は108.4トン（前年比94%、過去平均比89%）と前年と同程度の水揚げとなりました（図8-1）。

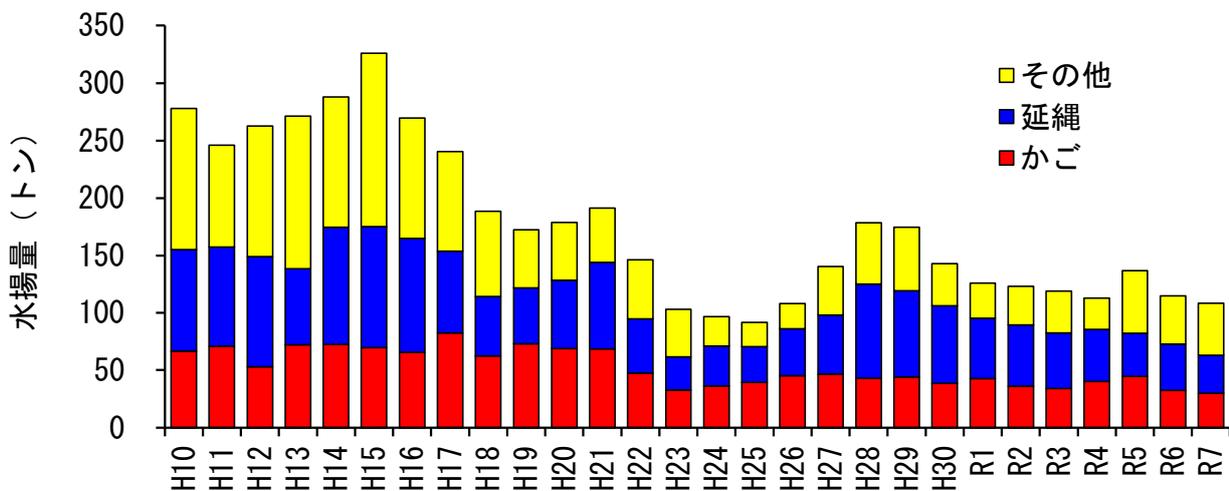


図8-1 岩手県におけるチゴダラの漁法別水揚量

### 3) 資源動向

かご、延縄における1隻1日あたりの平均水揚量は、平成16～17年に最大となりましたが、その後減少し、平成24年頃から横ばいで推移しています。令和6年以降は、かごでは減少傾向、延縄では増加傾向に転じています。令和7年は、かご、延縄ともに前年並となりました（図8-2）。

漁業指導調査船「北上丸」によるかご調査におけるチゴダラの平均採集尾数は平成22年を最大にその後は減少に転じており、令和6年に大きく減少しました。令和7年は、前年を上回りましたが、依然として低水準となっています。底延縄調査の平均採集尾数は、令和元年以降は減少傾向を示しています。令和7年は昨年を大きく下回り、平成22年以降最低となりました（図8-3）。

以上の結果及び水揚動向から、チゴダラの資源量水準は中位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

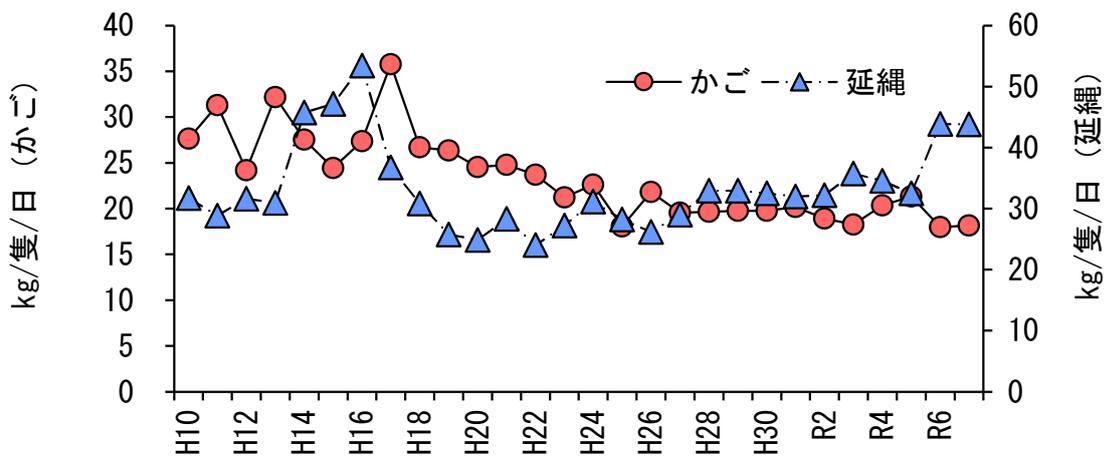


図8-2 かご及び延縄における1隻1日あたりの平均水揚量

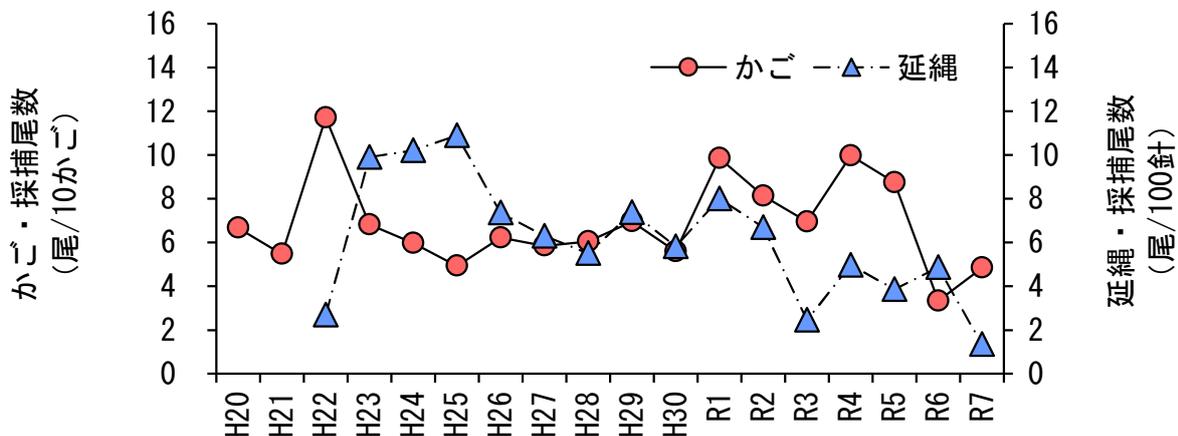


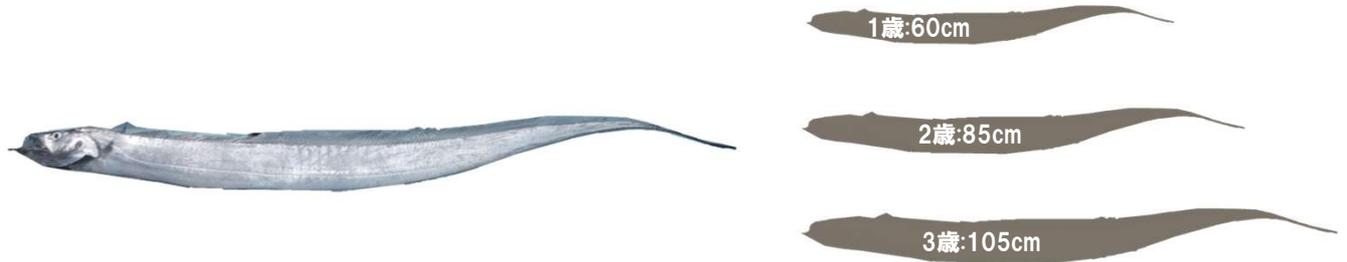
図8-3 釜石沖における調査船調査によるチゴダラの平均採集尾数

#### 資源管理に関するコメント

近年は漁獲物の小型化が懸念されています。本種は成長が遅く、資源量の回復に時間を要することから資源量を減少させないことが重要です。商品価値の低い小型魚及び、肝臓が発達していない夏場の水揚げを控えることが、資源量の増加につながると考えられます。

## 2 動向評価魚種

## 2-9 タチウオ (呼び名：たちうお)



### 1) 一般的な生態

タチウオは、北海道以南に分布し、主に水深100mまでの中底層に生息しています。体長が小さいうちはオキアミ・アミ類などの動物プランクトンを餌とし、大きくなるとイワシ類（特にカタクチイワシ）などの魚類を好むようになります。産卵期は生息する海域によって異なり、年に1～2回行うと考えられています。

1歳で全長約60cm、2歳で85cm、3歳で105cmに達し、概ね2歳～3歳で成熟し、産卵に加わるようになります。なお、本県海域では秋から冬にかけて成熟した個体が確認されています

### 2) 水揚動向

タチウオは、ほぼ定置網でのみ漁獲されており、漁獲対象は概ね2～3歳が主体になっていると考えられます。

水揚量は令和元年から増加し、令和4年に22トンと最も多くなりました。その後は減少し、令和7年の水揚量は10.3トン（前年比120%、過去平均比109%）と前年を上回りました（図9）。

なお、タチウオは情報が不足しているため水準評価は保留とし、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

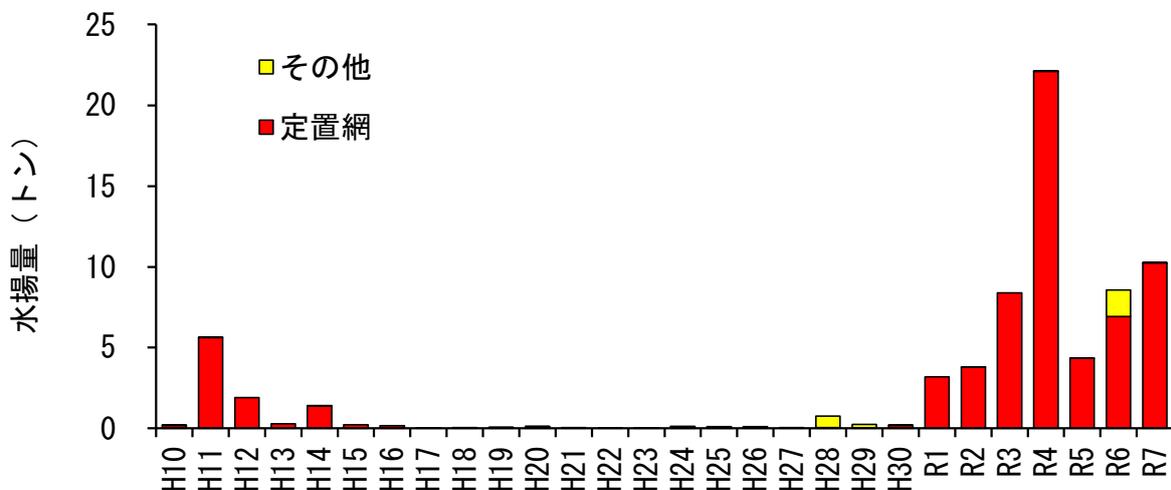


図9 岩手県におけるタチウオの水揚量

## 2-10 トラフグ (呼び名：とらふぐ)



### 1) 一般的な生態

トラフグは、北海道室蘭市以南の太平洋、日本海、朝鮮半島西岸、黄海、東シナ海に分布しています。主に砂泥質の海底に生息し、エビ・カニ類、魚類を餌としています。産卵時期は3～5月で、水深数十m程度の浅場に移動し、海底に水に沈む卵を産みます。

成長は早く、1歳で全長25cm、2歳で30～35cm、3歳で40～45cmに達し、オスは3歳、メスは3～4歳で成熟し、産卵に加わるようになります。

### 2) 水揚動向

トラフグは主に定置網で漁獲されており、漁獲対象は2～3歳が主体になっていると考えられます。水揚量は、震災の影響により平成23年に大幅に減少しましたが、平成24～26年にかけて急増し、平成27年以降は3トン前後で安定して推移しています。令和7年の水揚量は1.6トン（前年比62%、過去平均比63%）となりました。（図10）。

なお、トラフグは情報が不足しているため水準評価は保留とし、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

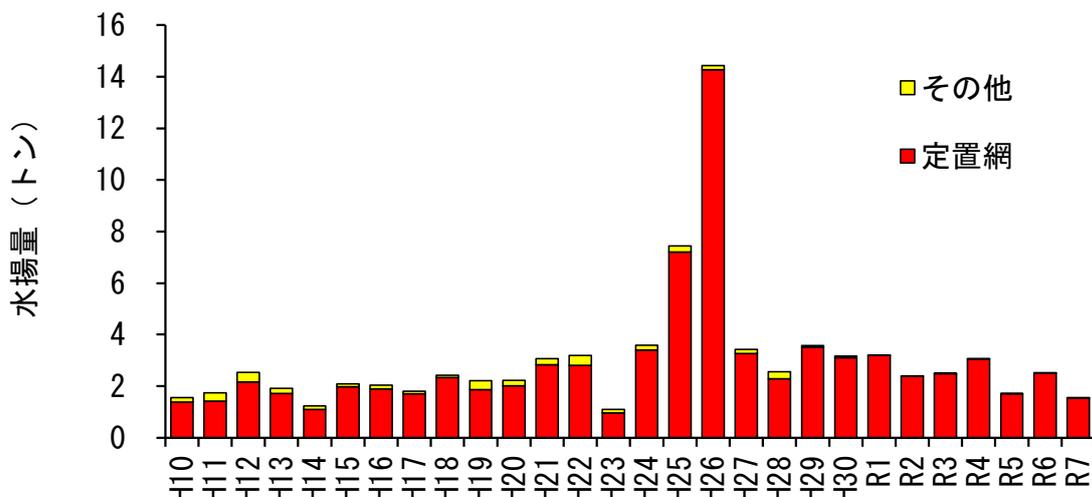


図10 岩手県におけるトラフグの水揚量

## 2-11 マダコ

(呼び名：いしだこ(宮古以外の地区))

### 1) 一般的な生態

マダコは、北海道を除く日本全域に生息しており、津軽海峡が分布の北限とされてきましたが、近年は北海道南部でも分布が確認されています。主にエビやカニなどの甲殻類や貝類を主な餌としており、東北ではアワビやホタテなどの貝類を捕食することが知られています。岩手県周辺では、水深100mよりも浅い海域から沿岸域の海底に生息しています。

成長は速く、概ね体重0.5~0.6kgで成熟し、寿命は1~2年だと考えられています。



### 2) 水揚動向

マダコは、主にかごで漁獲されています。漁獲主体は体重数百g~3kg程度の個体となっています。令和元年までは水揚量が数百トン単位で大きく変動していましたが、令和2年以降は常に数百トン規模で漁獲されています。令和7年の水揚量は567.2トン(前年比60%、過去平均比95%)と、前年を下回りました(図11)。また、かごにおける1隻1日当たりの平均漁獲量(かごCPUE)は令和元年以降、高い水準で推移しています。

以上のことから、マダコの水揚量水準は高位、動向は増加傾向にあると判断しました。

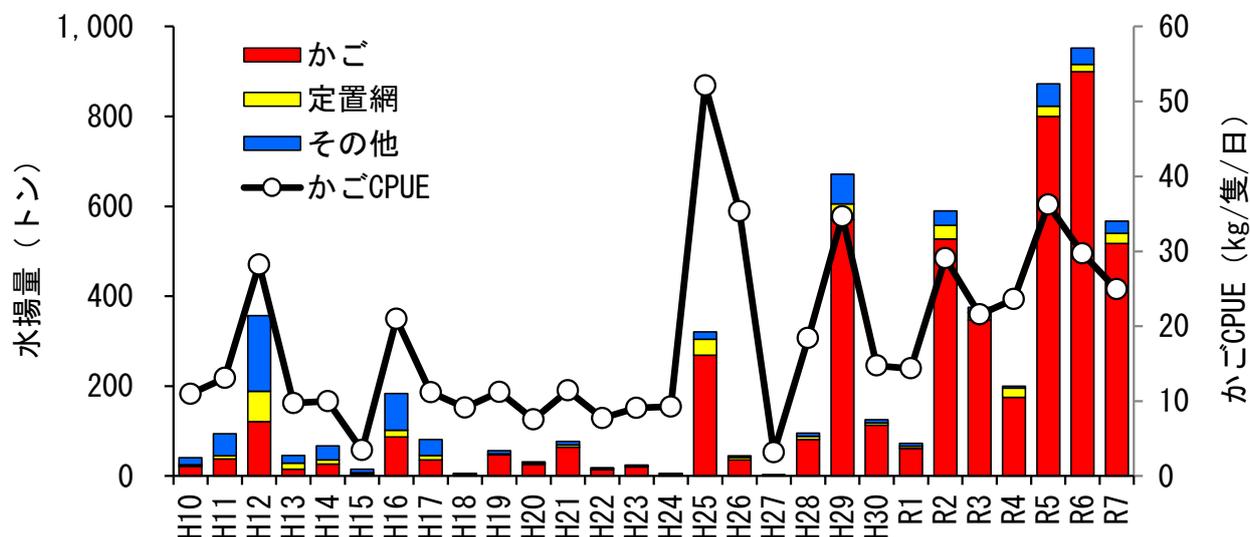


図11 岩手県におけるマダコの漁法別水揚量

### 資源管理に関するコメント

現在の水揚量水準は、高位で好調が続いていますが、漁獲努力量の急激な増加も確認されています。一方、近年は全国的にマダコ水揚量が減少してきていることや、漁獲される個体の小型化も指摘されていることから、将来的には小型サイズの漁獲制限や、産卵時期の禁漁措置といった資源保護の取組が必要となる可能性もあります。

## 2-12 マサバ、ゴマサバ (呼び名：さば)



マサバ



ゴマサバ

### 1) 一般的な生態

本県ではこれら2種を「さば類」として水揚げしています。

マサバとゴマサバは類似した分布・回遊形態をしており、夏～秋季になると三陸～北海道沖に索餌のため来遊します。黒潮-親潮移行域より北の海域では、ほぼ同所的に分布するとされており、岩手県では季節や海況によりさば類に占める2種の割合が変化します。

主な餌はオキアミ類等の甲殻類や、カタクチイワシなどの小型魚類です。

寿命はマサバが8歳程度、ゴマサバが6歳程度とされており、本県では主に0～6歳のマサバと、2～6歳のゴマサバが水揚げされています。

### 2) 水揚動向

さば類は主に定置網、まき網、底びき網で漁獲されています。平成24年以降、水揚量は定置網を中心に増加傾向となり、年間1～2万トンで推移し、令和3年には、平成10年以降で最多となる約2.7万トンの水揚げがありました。しかしその後は急激な減少傾向へ転じており、令和7年の水揚量は6,632.3トン（前年比54%、過去平均比34%）と、1万トンを下回る水揚量となりました（図12）。

以上のことから、水揚量水準は低位、動向は減少傾向にあると判断しました。

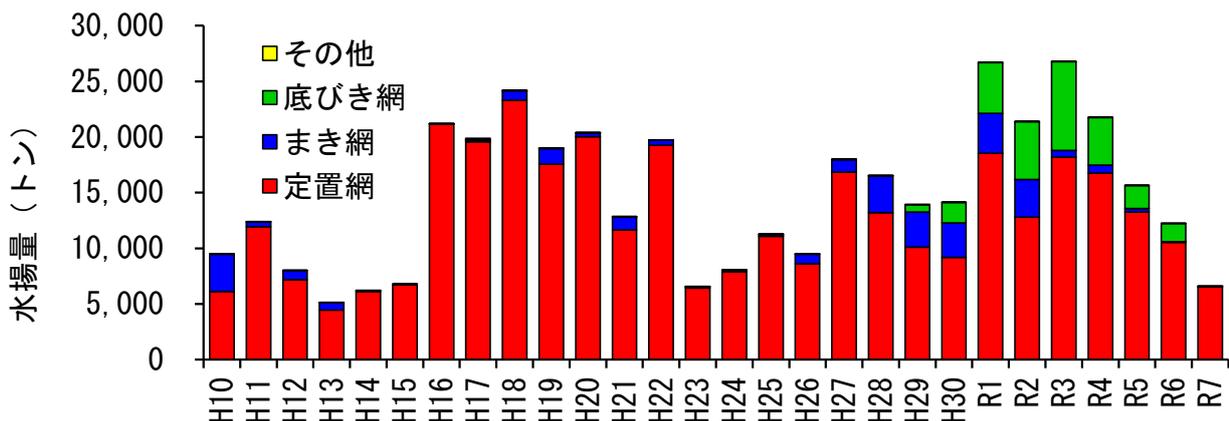


図12 岩手県におけるさば類の漁法別水揚量

### 資源管理に関するコメント

本県におけるさば類の水揚量は令和4年以降急激に減少しており、国の資源評価においても、特にマサバの資源状態は悪化していると評価されています。

なお、マサバ・ゴマサバはそれぞれで資源評価を行っていますが、配分されるTACは両種の合計値となっていることに注意が必要です。

## 2-13 マイワシ (呼び名：まいわし)

### 1) 一般的な生態

マイワシは、太平洋沿岸に広く分布し、寿命は7歳、成熟は1～2歳から始まるとされています。主な産卵域は四国沖から関東近海の黒潮内側域ですが、太平洋沿岸各地で産卵をするローカル群が確認されています。

主な餌は動物プランクトンで、春～夏季には索餌のために北上回遊、秋～冬季には産卵のために南下回遊を行います。



### 2) 水揚動向

主漁期は、北上回遊群を対象とした5～7月と、南下回遊群を対象とした12～翌2月に分かれており、近年は冬季の水揚げが全体の8割近くを占めています。

漁獲量は平成25年以降、増加傾向にあり、定置網、まき網に加えて、近年はサンマやスルメイカの不漁を受け、小型漁船漁業の経営安定化に向けた火光利用敷網による試験操業も行われています。令和7年の水揚量は17,194.3トン（前年比62%、過去平均比82%）と前年を下回りました（図13）。

以上のことから、水揚量水準は中位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

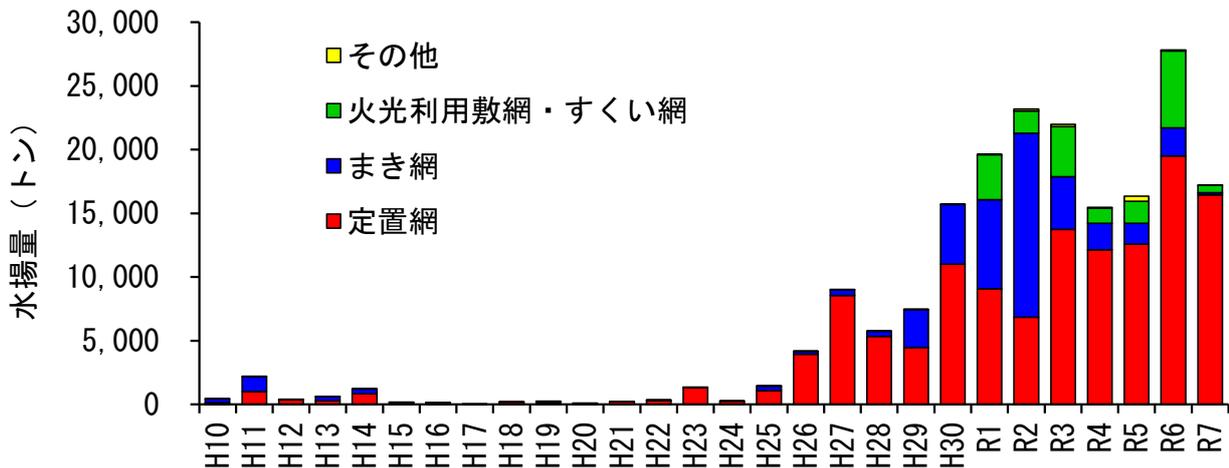


図13 岩手県におけるマイワシの漁法別水揚量

### 資源管理に関するコメント

マイワシの資源量は、平成22年以降に良好な加入が続いたことで増加傾向に転じています。しかし、令和5年の加入量は比較的低かったと推測されており、令和7年の水揚量は前年の6割と急激に減少していることから、今後の資源動向には注意が必要です。

## 2-14 スルメイカ

(呼び名：するめ、まするめ)

### 1) 一般的な生態

スルメイカは、冬季に東シナ海で孵化して太平洋を北上する群と、秋季に日本海西部～東シナ海北部で孵化して日本海を北上する群に分けられ、本県では冬季発生群が水揚げの主体となっています。寿命は1年で、オキアミなどの甲殻類や、イワシ類などの小型魚類を主に捕食します。

春～初夏に水揚げされる10cm前後のものは「小するめ」、冬に水揚げされる25cm前後のものは「冬至するめ」と呼ばれます。



### 2) 水揚動向

定置網、いか釣、底びき網を主体として6月～翌1月に水揚げされます。最盛期であった平成20年代前半には、初夏～冬にかけてまとまった水揚げがありましたが、近年は資源量の減少や高水温化などにより漁場が形成されにくくなり、明瞭な漁期は初夏～秋のみとなっています。令和7年は数年ぶりに冬季にまとまった水揚げがありました。

水揚量は平成12年に急増し、その後増減を繰り返しながらも年間1～2万トンで推移してきました。しかし、平成27年からは減少傾向に転じ、令和7年は4,353.8トン（前年比156%、過去平均比172%）となりました（図14）。また、令和元年以降には漁獲物の小型化が確認されており、成長の鈍化も生じていると考えられます。

以上のことから、水揚量水準は低位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

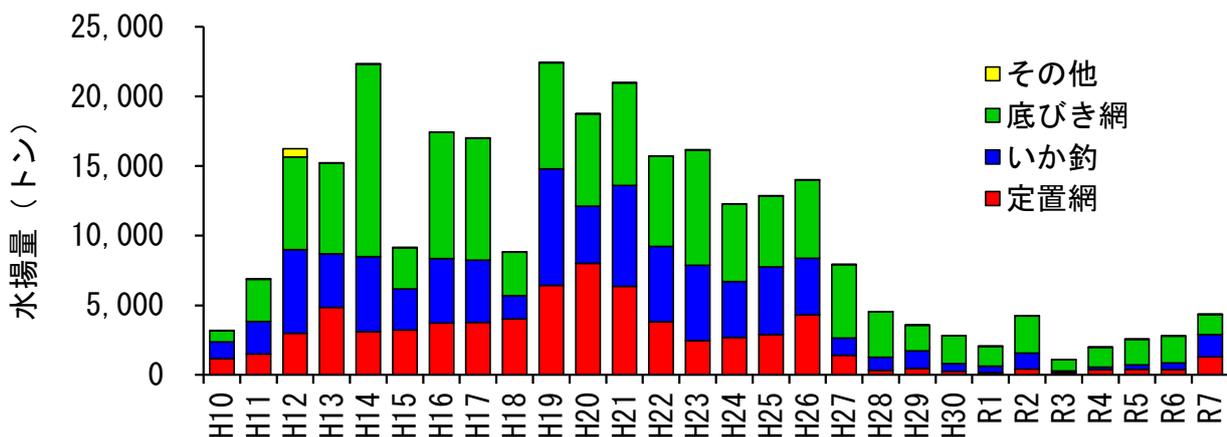


図14 岩手県におけるスルメイカの水揚げ別漁法別水揚量

### 資源管理に関するコメント

令和7年は、本県沖に漁場が形成されたことにより、平成29年以降で最多の水揚量となりました。しかし、水揚量は依然として低水準であることや、漁獲物の小型化も解消されていないことから、資源状態が回復したとは言いきれない状況にあります。今後も資源を利用するために、継続的な資源の保護と管理が重要です。

## 2-15 ツノナシオキアミ (呼び名：いさだ)

### 1) 一般的な生態

ツノナシオキアミは、北太平洋に広く分布する動物性プランクトンの一種です。一般的に表層～水深400mまで広く生息しており、魚類、哺乳類、鳥類などの様々な生物の重要な餌生物の一種です。季節的に分布水深が変化し、春先には200mより浅場に移動することが知られており、東北海域では春先に漁業の対象となり、親潮の南下が漁場形成に大きく影響すると考えられています。

寿命は概ね1～2年で、体長約16～18mmで成熟し、雌のほうが大型になると言われています。



### 2) 水揚動向

ツノナシオキアミは、ほぼ船びき網でのみ漁獲されています。水揚量は平成12年以降減少傾向で、令和7年漁期の水揚量は4,373.9トン（前年比205%、過去平均比120%）と前年を上回りました（図15）。

ツノナシオキアミは、漁業関係団体により年間漁獲枠が自主的に設定されており、単価によっても水揚量の変動があります。ただし、平成12年以降は水揚量が継続的に減少し、不安定な水揚げが続いています。

以上のことから、ツノナシオキアミの水揚量水準は低位、動向は横ばい傾向にあると判断しました。

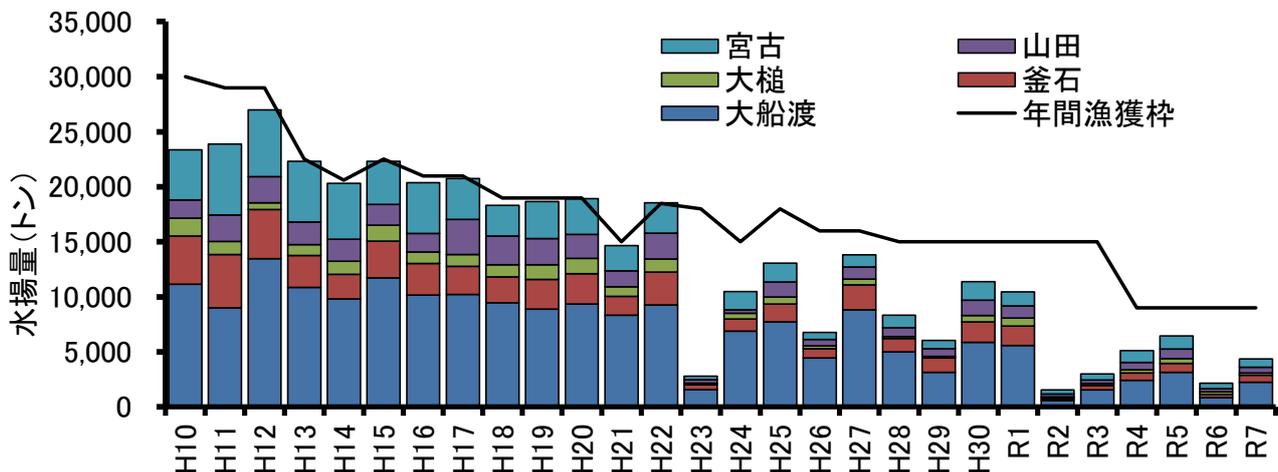


図15 岩手県におけるツノナシオキアミの地区別水揚量と年間漁獲枠

### 資源管理に関するコメント

令和7年は春季に親潮の南下があり、黒潮続流が北偏していた昨年と比べて漁場が形成されやすい海況にあったと考えられます。しかし、依然として水揚量は低水準であり、資源状態が回復したとは言えません。今後も動向には注意が必要です。

表 岩手県における主要魚種の水揚動向(トン単位)注1,2)

魚種	漁法	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7年 直近5カ年 平均比(%)
ヒラメ	定置網	42	31	51	81	77	76	82	95	63	99	176	171	118	88	69	52	57	70	76	81	77	127	91	106
	底刺網	55	26	33	41	90	46	61	58	27	38	54	63	30	38	29	31	24	22	22	31	27	29	33	125
	その他	11	8	6	16	27	16	20	14	3	10	17	22	14	14	16	9	7	9	9	16	17	15	22	168
	合計	107	65	90	137	194	138	162	167	93	146	246	257	161	141	113	93	87	101	107	128	121	171	146	116
マコガレイ	底刺網	57	50	62	58	57	62	67	69	41	55	52	59	55	44	49	59	53	36	29	37	41	17	16	50
	その他	12	10	11	15	17	14	18	17	6	13	20	25	23	24	23	13	13	11	8	9	9	8	6	61
	合計	68	60	73	73	74	77	85	87	47	68	73	84	78	68	71	72	66	47	37	46	51	25	22	53
ハバガレイ	底びき網	92	35	37	51	39	44	23	23	30	48	51	59	50	83	79	47	50	49	47	33	49	34	54	126
	底刺網	124	116	154	171	100	124	105	141	61	91	94	179	193	143	113	145	112	91	74	78	73	35	40	57
	その他	30	28	36	38	29	22	29	27	12	28	33	37	35	30	26	27	29	37	32	30	36	36	41	119
	合計	245	180	227	260	168	190	156	191	103	167	178	275	279	256	218	219	190	177	154	140	159	106	135	92
アイナメ	延縄	39	32	33	42	47	42	37	29	9	15	22	26	24	25	24	28	26	18	16	13	13	10	15	106
	底刺網	55	48	47	42	32	36	29	28	20	25	24	30	30	30	33	43	32	22	19	26	19	18	25	120
	その他	33	32	33	33	36	30	29	27	14	25	31	38	40	34	34	30	28	26	22	25	23	31	31	122
	合計	127	112	113	117	115	108	95	83	44	65	77	95	94	89	91	102	87	66	56	64	55	58	70	118
マダラ	底びき網	2,267	3,463	7,565	4,133	4,127	4,108	7,149	9,868	6,599	9,442	9,017	6,727	4,786	2,925	1,205	2,796	2,264	782	758	480	890	697	602	83
	延縄	861	743	918	1,216	1,404	1,150	917	726	933	1,595	2,040	2,154	2,172	1,860	1,318	1,098	973	930	635	485	377	310	238	43
	その他	206	209	154	268	185	377	303	413	250	323	772	544	535	333	226	280	754	414	788	601	1,277	548	839	116
	合計	3,335	4,415	8,637	5,617	5,716	5,636	8,368	11,007	7,781	11,361	11,829	9,424	7,493	5,118	2,749	4,174	3,991	2,126	2,181	1,567	2,544	1,556	1,679	84
チゴダラ (どんこ)	カゴ	70	65	82	62	73	69	68	47	33	36	39	45	47	43	44	38	43	36	34	40	44	32	30	80
	延縄	106	99	71	52	49	60	76	47	29	35	31	41	52	82	75	68	53	53	48	45	38	40	33	73
	その他	151	105	87	74	50	50	47	52	42	26	21	22	42	53	55	37	31	34	37	27	55	42	45	117
	合計	326	270	241	189	172	179	191	146	103	97	91	108	140	179	175	143	126	123	119	113	137	115	108	89
キチジ	底びき網	138	55	51	81	84	50	133	108	109	145	124	147	232	286	266	236	139	162	169	143	150	199	236	143
	その他	25	27	21	16	12	14	11	12	2	3	6	11	14	12	21	14	14	8	9	5	4	4	3	47
	合計	163	81	72	98	96	64	144	120	111	148	130	157	246	298	287	250	153	170	178	149	154	202	238	140
	底刺網	15	14	10	15	17	26	28	24	15	16	16	15	16	15	18	24	23	15	16	22	20	16	17	96
ソイ類(すい)注3)	その他	28	29	30	32	30	42	49	47	40	53	59	47	69	77	82	58	61	54	53	49	46	40	34	70
	合計	42	42	40	47	47	68	77	71	55	70	75	62	85	92	100	82	84	69	70	71	66	56	51	77
	合計	95	53	58	67	94	78	80	79	45	64	102	133	127	92	86	102	91	76	57	53	69	84	86	127
アナゴ類(はも)	合計	1,734	1,634	1,121	1,178	1,606	1,336	1,547	1,260	1,102	1,243	1,263	869	1,148	1,437	1,162	794	897	875	630	437	369	253	425	83
	合計	15	183	82	6	56	32	77	18	24	6	321	45	2	96	671	125	73	590	376	200	872	952	567	95
ケガニ注4)	底刺網	32	41	47	29	26	31	44	38	32	17	14	14	12	7	9	10	10	8	11	23	33	42	-	247
	カゴ	16	22	18	31	43	71	62	52	81	63	52	36	32	16	22	29	20	18	28	32	35	32	-	121
	その他	27	35	37	41	3	3	3	3	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	5	2	-	132
	合計	75	98	102	101	71	106	108	93	114	81	66	51	44	22	31	40	31	27	40	58	73	77	-	168
タチウオ トラフグ	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4	8	22	4	9	10	109
	合計	2	2	2	2	2	2	3	3	1	4	7	14	3	3	4	3	3	2	2	3	2	3	2	64
マサバ、ゴマサバ	定置網	6,742	21,175	19,560	23,307	17,570	20,036	11,656	19,240	6,423	7,882	11,071	8,611	16,830	13,205	10,108	9,193	18,539	12,811	18,200	16,767	13,269	10,518	6,548	46
	底びき網	0	0	3	1	2	1	0	1	0	2	0	0	10	35	664	1,843	4,545	5,196	7,993	4,275	2,076	1,644	82	2
	その他	46	8	316	843	1,419	349	1,169	483	137	163	187	858	1,144	3,288	3,162	3,091	3,605	3,384	603	721	309	73	2	0
	合計	6,788	21,184	19,879	24,150	18,992	20,386	12,826	19,724	6,560	8,048	11,258	9,470	17,984	16,528	13,934	14,127	26,689	21,391	26,796	21,762	15,654	12,235	6,632	34
マイワシ	定置網	140	141	5	178	122	96	216	315	1,336	250	1,082	3,949	8,547	5,344	4,458	11,002	9,082	6,860	13,739	12,132	12,587	19,501	16,437	127
	火光利用敷網	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,520	1,771	3,924	1,206	1,742	6,052	573	20
	その他	17	2	4	0	112	0	0	19	0	0	348	232	473	393	3,016	4,700	7,016	14,545	4,333	2,126	2,027	2,281	184	4
	合計	157	143	9	178	235	96	216	335	1,336	250	1,430	4,181	9,019	5,737	7,474	15,702	19,618	23,176	21,996	15,465	16,356	27,834	17,194	82
スルメイカ	定置網	3,219	3,721	3,782	4,017	6,427	8,012	6,374	3,827	2,461	2,685	2,910	4,319	1,420	340	463	263	185	432	164	373	398	370	1,286	370
	底びき網	2,940	9,041	8,759	3,106	7,625	6,612	7,369	6,466	8,268	5,550	5,079	5,612	5,275	3,259	1,833	1,999	1,412	2,669	812	1,434	1,852	1,924	1,445	83
	いか釣	2,973	4,647	4,469	1,690	8,368	4,115	7,233	5,408	5,419	4,024	4,859	4,070	1,236	934	1,276	560	450	1,138	119	184	317	502	1,621	359
	その他	12	4	22	1	24	18	5	4	3	1	3	6	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	393
	合計	9,143	17,412	17,031	8,813	22,443	18,757	20,981	15,705	16,151	12,260	12,850	14,008	7,934	4,532	3,572	2,822	2,047	4,239	1,095	1,992	2,567	2,796	4,354	172
ツノナシオキアミ注5) (イサダ)	合計	22,456	20,367	20,752	18,305	18,664	18,926	14,653	18,561	2,917	10,503	13,060	6,780	13,818	8,349	6,051	11,380	10,471	1,561	2,998	5,135	6,458	2,157	4,373	119

注1)岩手県水産情報配信システム「いわて大漁ナビ」集計値。

注2)水揚量は暦年集計(1~12月)。

注3)クロソイ及びその他ソイ類で集計。

注4)ケガニのみ漁期年集計(12~翌4月)であり、震災前及び直近5カ年平均比は令和6年度漁期(令和6年12月~令和7年4月)との比。

注5)ツノナシオキアミの漁期はほぼ2~4月のみ(一部5月を含む)。